

新入学生への導入教育 スタディスキルズ

2009年7月

高知工科大学 教育講師室長

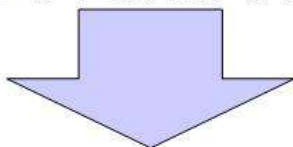
丹羽 昭男



1

導入教育の必要性

- 大学の学習方法は、高校までとは大きく異なる
 - 自律的に意欲を持って取り組むことが前提
 - メモを取って集中し、復習もする
 - 多様な解答(答えは一つではない)
 - 学習結果の報告・発表のスキルが必要

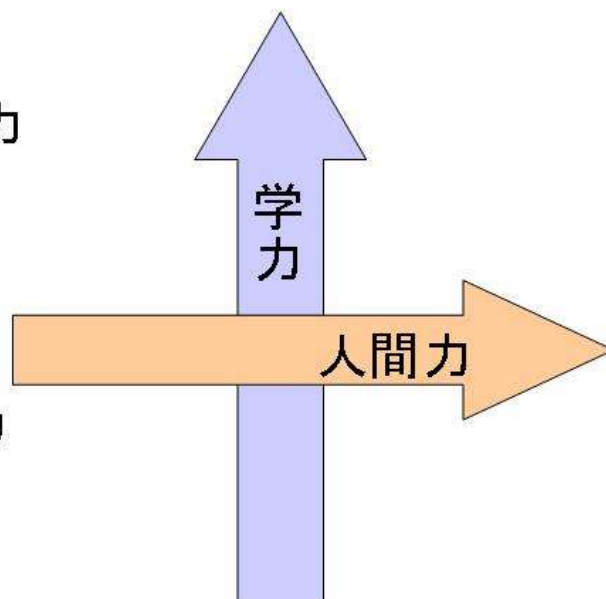


- 学習スキルを系統的に教える必要がある

2

学力と人間力

- 学力
 - 専門分野を極める力
- 人間力
 - 生き抜く力
 - 人と付き合う力
 - コミュニケーション力
 - 成し遂げる力
 - 困難を克服する力



3

大学で学修するために必要なスキルの例

- 授業に必ず出席する
- 宿題を期限どおり提出する
- メモを取る
- 正解のない答を導き出す
- 分かりやすい文章を書く
- 学習成果を発表しアピールする
- 教員や仲間のお話を注意深く聴く
- 適切に質問する
-

4

社会へ出て行くために必要なスキルの例

● 社会からの要請

- 昔に比べ、完成されたレベルを期待する傾向がある
- 学力だけでなく、人間力を重視する傾向にある

● 要求されるスキル

- コミュニケーション能力
 - 相手に自分を理解させる
 - 自分も相手を理解する
- 困難に打ち勝って問題を解決する力
- したたかに生き抜く力

● 現状のレベル

- 高校教育までではこれらの習得は不十分と感じている

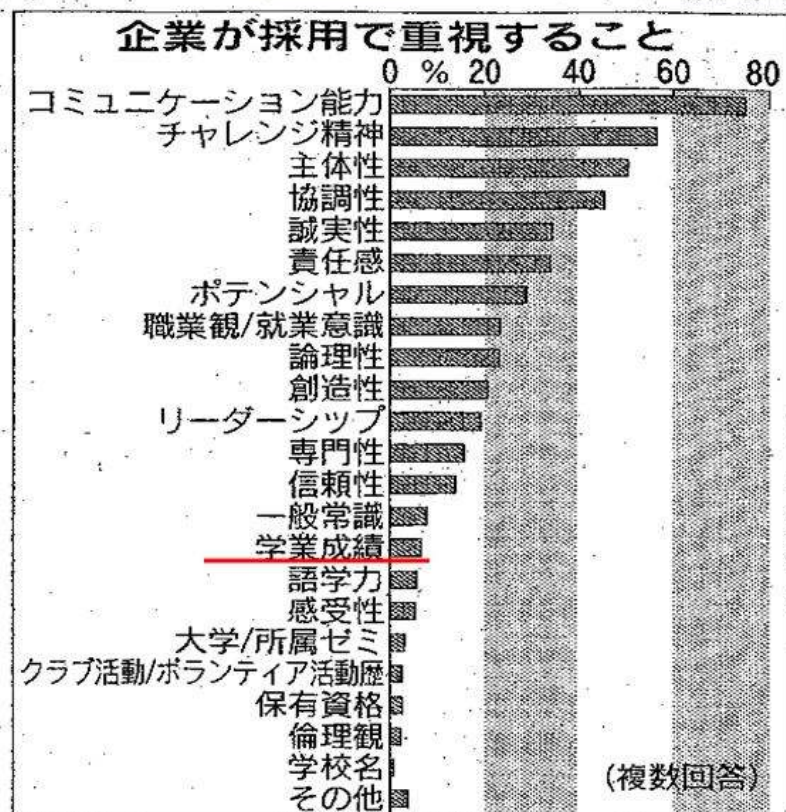
● 入学時→卒業 までのギャップが大きい

5

社会に望まれる人材

- 日本経団連のアンケート
(2,087社回答)

日経2005.2.5



1年生に多い傾向

● 良いところ

○ まじめ

- 大半の学生はきっちり出席している

○ 素直→指示すると守る

● 苦手なところ

○ 文章が書けない、適切な漢字が書けない

○ 敬語が使えない

○ 新聞を読まない→社会の動きを知らない

○ 指示しないと動かない

○ リーダーシップが取れない

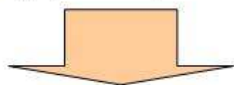
➡ これらを早期に改善してゆく必要がある

7

どのように教えるか

● 従来は専門教育の中で指導

○ それだけでは不足する



● 導入教育を専門に行う教員を採用

○ 長年実務に携わってきた社会のベテランが担当

○ 教育講師13名

○ 学生を育てることに熱い気持ち

● 演習を主体とする



● スタディ・スキルズという科目を設置

8

スタディスキルズ:具体的な方法

- 演習を通して実践的に体験させる
- 10名程度の少人数セミナー形式
- 演習テーマの選定
 - 8回程度で達成感が得られるテーマ
 - 各教育講師が社会で経験した実践的なテーマ
- 毎回宿題を出す
- 最後に詳細なレポートを作成させる
- みんなの前で発表する

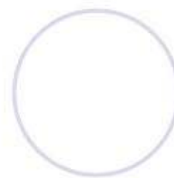
9

スタディスキルズ:いろいろな取り組みの一例

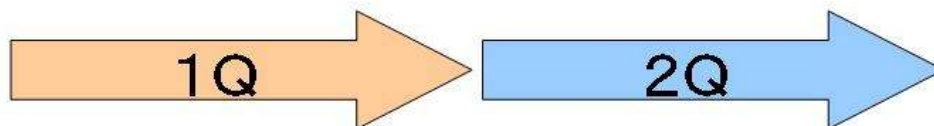
- 社会で通用する文章を書かせる演習
 - お世話になった高等学校の先生に挨拶の葉書を書かせる
 - 言葉遣い、季節の挨拶、お世話になったお礼、先方が期待している内容を考え適切な言葉で表現
 - 何度も教員が指導添削し、実際に投函してお届けする
- 成果の発表
 - わかりやすく、説得力のあるプレゼンテーション

10

班構成



班構成: 10~15名



教員A

テーマ α

8コマ

教員B

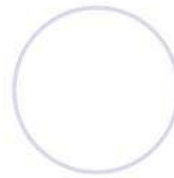
テーマ β

8コマ

- 1Qと2Qで教員、テーマを変える
- 学生の班構成は同じ

11

教育講師の紹介



12

授業風景



13

授業風景(2)



14

授業風景(3)



15

受講学生の感想

- 人前で喋れるようになった
- 基礎的なスキルが付いたと実感
- 社会への関心が出てきた

- 受講した2～4年生にアンケートをした
 - 2/3を越える学生が役立っていると答えている

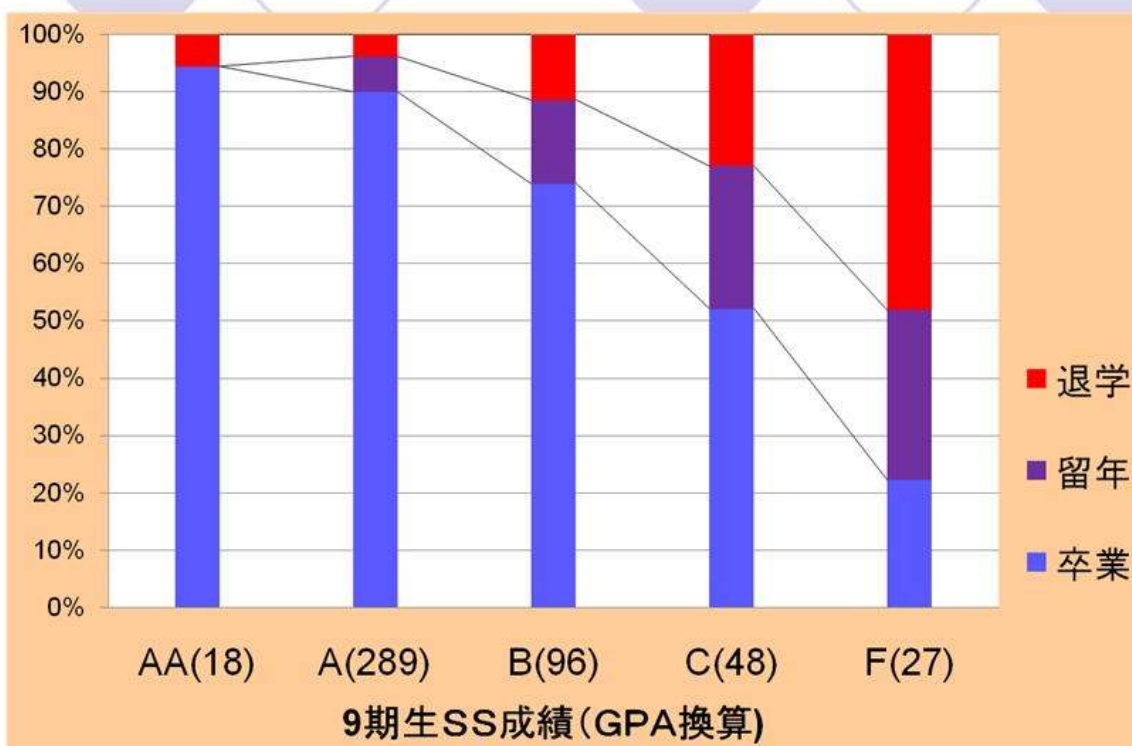
16

他校の取り組み

- 初年次教育学会が発足(2008年3月)
- 他校での取組との比較
 - 歴史と内容において、先行していると自負している

17

スタディスキルズの成績と卒業可否



18



その他

- 文部科学省からも高く評価
→GP(グッド・プラクティス)
- 今後も研鑽に務め、よりよい初年次教育を確立したい
- 教育講師はサポート係
 - 卒業まで、専門教育以外の分野でサポート
 - 何でもご相談下さい